

おばちゃんは、たくましく、あつたかゝい 電車内で貧血で倒れ、ありがたさ実感

普 段本を読まないA子が、読書に夢中になっていた。ベストセラーの『女性の品格』。

「あたらしい女になる!」。ぽつりとA子は言う。

「頼れるものは結局女なんだって。今朝、それ実感したんだよね!」

今朝、A子が乗る京王線。その朝は混んでいて、A子は隅に立ち携帯をいじっていた。「そしたら急に頭が真っ白になってさ、貧血だよ。次の駅で休もうと頑張つて立っていたんだけど…。結局その場に座り込んでしまったんだよね」。

A子の前にいたおじさんが「大丈夫ですか?」と声をかけてくれた。

「でも、おじさんは結局、それ以上は何もできないんだよ」。

すると遠くにいたおばさんが、満員電車のなかわざわざ人をかいくぐって来て、「大丈夫? 次の駅まであとちょっとだからね」とA子を支え、次の駅でホームのベンチまで連れていってくれた。

「駅員さん呼ぼうか? 水買ってこようか?」と気遣ってくれるおばさん。「ありがたかった」とA子。「ただの貧血なので大丈夫です」とお礼を言つて別れ、おばさんは駅の階段を下りていった。

その後、A子は次の電車を待たが貧血はなかなか治らずに、一本目、二本目と電車を見送つた。友達に迎えに来てもらおうかと携帯電話を握つたそのとき…。

「おばちゃんが戻つてきたのよ! 駅員さん連れてさ」

「やつぱり心配で戻つてきちゃつた」というおばさんにA子は涙。駅の事務室で少し休ませてもらい、回復してそのまま学校に来たのだという。

「いざというとき頼りになるのは、おばちゃんだね。いじわるなおおばちゃんもまれにいるけど、でもそんなおばちゃんもみんな誰かのお母さんだものね。女の人の、たく

ましさとあつたかさがあるんだよね」

親切なおばちゃんに出会い、感謝の余韻さまやらぬA子。「私も安心して頼れるおばちゃんになりたいわあ」と、その後すぐにその本を買つたという。おばちゃんになるのは、まだまだちょっと早いよ、と私は笑つた。

片道8400円の出費も「将来の投資」 大学院生に交じつて聞く「経営革新」

11月8日。授業を終え、いつもならバイト先へと向かうところが、この日は中大理工キャンパスと大学院のある後楽園へと向かつていた。毎週木曜6限に行われている院生の授業に参加するためだ。

中央大学出身の経済人からなる団体、南甲倶楽部の寄附講座「経営革新」である。

この授業は毎週違った講師を招き、その企業の経営戦略などを聴くというもので、キリン、日産など、その業種は多岐にわたる。本来は院生の正規科目であるため、学部学生は聴講できないが、寄附講座と

その晩帰宅すると、大きなゴミ袋を3つも抱え、顔を赤くしてマンションから出てきた母に遭遇した。

「隣のおばあちゃんのうちのごみも持つてきてあげちゃつた」と母。A子のいうとおり、おばちゃんはたくましいんだ。私もそう実感した。(直)

いう特性上、特別に申し込みさえすれば学部学生も聴講できるようになっている。私はゼミの教授からこの講座の存在を聞き、申し込み参加した。

参加するにあつて一抹の迷いがあつた。それは交通費である。中央大学から後楽園まで片道8400円。一人暮らしにとっては手痛い出費だ。しかし、「これは将来への投資だ」と自らに言いかけた。

この日の講演は、セイコーウォッチの社長の講演だった。会場に入ると、聴きに來ている人達は8割がスーツ姿。なかには女性もいたが、ほとんどが中年男性。私は完全に浮き気



味であった。が、これは最初から覚

悟していたし仕方がない、と腹をく

くって1時間半の講演に耳を傾けた。

講演はスイス製ウオッチとの競い

合いや新たな挑戦、ビジョンなどに

ついての話だった。若干の宣伝的要

素は仕方ないとしても、「いかに他

社との差を打ち出すか」といった活

きた話を聴くことができ、社員とし

てプレゼンに参加したような気分

になった。

こういつた機会はその

そうあるものではない。

就職活動を始めた人は勿

論、さまざまな企業に興味がある人

は聴講したい回だけ参加できるので、

交通費と所要時間が玉に瑕ではある

が、参加してみるといいのではない

だろうか。

(R)

終わった後、エステ

ティシアンの方から「肌

がとてもきれいですね」

とほめられ上機嫌。さら

に「乾燥しやすい肌みたいなので、

冬場は十分保湿してください」とア

ドバイスをもたらった。

エステをしてもらった日には気が

つかなかったが、次の日、起きてみ

るといつもより確実に肩が軽くなっ

ていた。また化粧をしてみると、化

粧ノリもエステをする前とした後で

は比べものにならないくらいに良く

なっていた。

そうそうエステに行けるわけでは

ないが、たまにリフレッシュに行き

たいと思った。

エステをしてもらった人はとても

良い気分にならなくても、エス

ティシアンの方は毎日他人の身体

を取り扱うわけだから当然ストレス

も溜まるはず。エステティシアン

の方々は自分がエステされたいぐら

いだろう。

(緑)

緊張しつつ、人生初エステに挑戦!! 「肌がとてもきれいですね」に上機嫌

あ る日突然母がこう言い出した。

「今度エステ行かない!?!」

そう言われて、ただただびっくり

自慢じゃないがエステなんてものに

は1回だつて行ったことがないのだ。

「別に行つてもいいけど・・・」

と言うと話は着々と進み、お台場ま

で行くことになった。

エステ当日、平静を装おうとして

も胸が高鳴ってしまう。一体どうい

う感じなのだろう…。少し緊張もし

つつ、いざエステへ出陣!!

部屋に入り、ガウンに着替える

と

エステティシアンの方からメデイカ

かった。

ルチエックのようなものを受けた。

普段使っている化粧品やアレルギー、

肌荒れした商品、病気・入院歴から

細かくチェック。

そのチエックが済んだ後、顔から

マッサージ。顔につけるものは柑橘

系のもので部屋いっぱいにはさわや

かな香りが広がる。部屋はほの暗く、

また身体は適度に温められているの

で、気がつくとし少し眠つてしまつて

いた。

それから肩のあたりをマッサージ。

どうやらこつていたようでかなり痛

かった。

